

A 健康な暮らし

①歩くのが楽しくなる町

車に頼った生活をしている人が多いので、街中の人以上に車でないと動けないと思っている人が多いのではないかと。歩くのが楽しくなるためには、歩く目的地みないところが欲しい。例えば、住民には街並み整備として、通りに面したところではガーデニングを頑張ってもらおうとか、近所みんなが街並みの整備をしていくことに協力する。企業には、歩くモチベーションを上げるということで、ウォーキングアプリを開発してもらおう。カフェとか立ち寄りスペースを設けてもらえると、ちょっと歩いて、みんなが集まってしゃべるといった動きも出てくる。行政としては、ウォーキングコースの設定として、ポイントポイントを、1番、2番、3番とたどって歩いたらウォーキングコースになるとか、モチベーションアップの後押し。企業が作ったアプリを活用してもらおうための情報提供。ポイント貯めたら介護保険料が安くなる等の仕組みがあれば良いのでは。

②人の声があふれる公園を作りたい

子どものときは、しょっちゅう公園で遊んでいた。何が違うのかと言えば、やはり今は草が生えた状態になって、遊具も安全かどうか、なんとなく不安な気がして使いにくい。近所の公園に関しては、住民が草抜きとかで協力することが必要。行政としては、安全管理。遊具の点検とか安全が分かりやすい形で見えたらいい。

その一方で、ちょっと大きな公園も欲しい。豊能町の人には、今は一庫公園に行くか、箕面森町の公園に行くか、そんな感じになっている。イメージとしては、そういうところの代わりになるような公園があれば良い。そうなれば住民としては、お互い誘い合って行くことになる。行政には、公園の整備を。車で行って大丈夫なような駐車場があったり、欲をいえば簡単なBBQができるような場所があれば嬉しい。企業には、時々イベントを開催してもらって、みんなが集まるような場を作ってもらえたら。

B 住みたくなる子育て環境

①小学生の学びの場のある町

放課後の預かりを無料でしてもらえる場所があれば良いのでは。行政としては、場所の提供。企業では、資金提供、見てくれる人の確保、場所の提供。住民としては、そこで見る人として働く人、資格のある人の協力。

②親がリフレッシュできる場所

親の居場所があれば良いのでは。親は悩みごとを抱えながら子育てしている。そういうことを共有できる場所や、良い解決法のアイデアが入手できるような場所があれば子育てしやすい。住民としては、「ゆるりん」のような預かってくれる人がいるので、そういうものを利用したり、複数で集まって一人が子どもをみている間に、他の親同士で意見交換する。企業としては、今日お願いしたいときに、すぐに預かってくれるような場所があれば非常に便利。また、老人施設でみてもらえるようなコラボができれば。実際に取り組んでいるところもあるようだが、高齢者も子どもからパワーをもらえるし、子どもたちも見てもらえて、親の居場所も作れる一石二鳥。行政としては、こういう場所があるということの情報提供や、老人施設の話もそうだが、いきなり個人ではできないので、最初のコーディネートをしてもらえたら。

C 既存ストックの活用

①商いが身近にある町

住民としては、「身近に商いがある」という機運を持ってもらうことや、まちづくりへの期待を持ってもらうこと。行政としては、時代の変化に合わせて用途地域のように「住宅街は住宅のみ」みたいに固まっている規制をもっと緩く、いろんな事業所とかが町中に入っていけるような規制の見直し、アップデートをしてもらうことが必要になる。その上で企業が参入しやすい環境を整える。町の中で企業が仕事をしようと思うような環境を整えて、企業側へPRしてどんどん商いが身近に感じるまちに近づいていく。

②町のハブになるような多機能センターがあるような町

イメージは学校の廃校跡といった大きな場所。そういう大きな施設を使わなくなった時の、施設の活用をどうするのか。実際に使う住民がそういった検討に参加しながら、これからの施設のあり方について検討して整備していく。行政と住民で当初から検討していく。施設の管理としては指定管理みたいなものになるので、その時の仕様の内容に、住民の意思や意向を反映できるような形にして、それを指定管理する際、仕様書で打ち出して企業に実際に実現してもらうことで、イメージ通りの既存ストックの活用につながるのではないか。

D 新しい仕事や生き方の創出

①資金が循環する町

住民が近所で知り合いから買い物をして、近くでお金を使う。町のお店を知る。そういう場が出来ればお金がまわる。それに必要な企業のアクションとして、企業がどんな思いで何をしているのかを住民に知ってもらえれば、その店でお金を使う人が増えるので地域に顔を出して関わってもらいたい。行政としては、規制緩和。都市計画法をとにかく規制緩和してほしい。規制緩和は大事。

②挑戦しやすい場がある町

根本は同じところが結構あるが、とにかく挑戦する。住民としては自分が楽しいこと、好きなことをしましょう。そういう人が増えれば面白くなる。さらに、これだけ色んなことをしている人がいるので、その人たちを見える化して発信していくことができれば、「こんなに面白い人がいる。私も何かしてみようかな」ということの後押しができる。それをサポートするメンターやワーキングみたいのものもできればいい。それに対して、企業として応援、スポンサーとしての活動。行政としては、行政が運営しているワーキングスペースなどがあってもいいので、それも一つの方法。あとは、何をするにも土地計画法の規制緩和が必要になる。

(補足：単発のイベントではなく常に挑戦できる場所があることが大事。行政の役割としては、そのような場所を作ったり、商品だけでなくスキル等を交換（新しい物々交換）する場を提供したり、みんな小規模になるので PR を支援したりする。)

E まちの魅力創造

①年齢を問わず学びのある町

いくつになっても「勉強したい」と思っている人はたくさんいる。老人大学に行ってる人もたくさんいる。老人大学の学科も農業関係であったり、スペシャリストを育てる学科であったり、それぞれの人が学びたいことがあるので、いろんなことを学べる「とよの大学」を作りたい。住民ができることは、講師になれるようなスキルを持っている人もいるので、スペシャリストバンクを作って登録してもらおう。学びたいと思っている人も声を上げてもらおう。企業としては、なるべく安く学びたいので、協賛金を出してほしい。教えることができるような人材を派遣してほしい。行政としてできることは、応援や、実際の実働部隊として実現してほしい。

②コワーキングができる町

コワーキングとは、共同・協力しながら働く、昔あった SOHO（Small Office/Home Office）の発展形。個人で働いていたところから、もう少し開いてみんなで集まって仕事をする。みんな集まっているけどバラバラの仕事をしていることもあるし、たまに一緒に同じプロジェクトをすることもあるのがコワーキング。

住民ができることは、スキルづくり。実際にコワーキングができるために文章が書ける、写真が撮れる、絵が描けるといったクリエイティブなところだけではなく、マネージメントができる、報連相ができるといったスキル。働くためのスキルを作る。企業としては、イスとテーブル。場所の提供も考えたが、基本的には場所を貸してくれる企業はほとんどない。管理者責任の問題もあり簡単にはかしてくれない。夢のないことを言うが、空調とイスとテーブル、これが大事なのでこれを何とかしてほしい。行政については、コワーキングできるような仕事を流してほしい。

F 魅力ある教育

①小中学校から自分の好きな授業を選択できる仕組み

固定したクラス・学年ではなく、フリーの学年で教育。それを一括して、概念を捨てていろんなことで自由に教育、学びの場を提供できれば。住民としては、なかなかできないけど、子どもたちに「これしなさい、あれしなさい」と、保護者や大人はいうけど、そんなのではなく、もっと子どもたちの自主性に任せて、「こんなことやりたい、あんなことやりたい」ということをしっかりと受け止めてあげたい。企業としては、企業でできることをどんどん紹介していく。学校に入り込んで、こんなことできるけどどうですかと言ってもらう。あるいは、そういった学校的な教育機関を作って、そういう人たちを受け入れる。行政としては、なかなか概念をとりはずすのは難しいけど、そこを十分見極めてやっていく、情報提供していく、支援していくということができる。

②教師の心のケア、親の心のケア。そういうことをしていくことで子どもたちの教育にも広がっていく

今の教育現場はしんどい。先生もしんどいし、親もしんどい。初めてのことだらけで、子どものことをどうやっていったら良いのか分からない。昔だったら世代間交流があった。子どもたちの中にも。親も、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいて色々なことを、知らないことも教えられるが、いろんなことを聞きながら学んで、それを伝えていった。今は核家族が多い、人数も少ない。隣近所の交流も少ない。こんな場がどこにでもあれば、みんなつながるので、困ったことを相談できたりする。そこを住民としても、先生の困っていることを聞いてあげる。あるいは、先生頑張っているなと認めてあげる。認めてあげるだけでも先生は頑張って子どもたちに教育をする。そういうところをしてほしい。企業として、企業というよりも学校として、そういうことを受け止めて、先生たちがやりやすいように、親も困ったことがあったらいつでも相談に乗れるような体制作りができれば。行政としては、それを潤滑にまわるような仕組みを作って、みんながハッピーになれるような形をとれるようにしていけたら良い。

G 人のいる風景、町の景色や歩く道

①町内の公園でオープンカフェをする

お店とかを持っていない人でもチャレンジショップ的にできればいい。住民の協力としては、お店を出す人に知ってもらいたい。お客になる人に宣伝するとか、話題にする。出店している人を非難、批判しない。応援する。住民が場所を使うことへの協力。企業は、ノウハウを出してもらいたい。店舗とか什器の提供。資金提供、チラシなどの制作など。行政は使用の許可とか、基準を決めて手続きの簡略化。登録制にしてすぐ出店できるような仕組み。調整・管理。ごみの廃棄、場所の整備など。

②温泉のある町

湯気があったり、人が集まったり、お土産物屋がある町になれば。その周りにヒマワリ畑があったり、登山客がふらっと立ち寄れる場所になればよい。住民としてはヒマワリ畑とかなら休耕地、空き地の提供。ノウハウであったり、持ち主、協力してもらえる人などの情報提供。受け入れの姿勢や困ったら言ってねとか、トイレがあるとか、ベンチを提供するなど、協力してもらえる人。企業としては、人とモノを出すこと。行政としては、PR、協力体制。認可を緩くする。環境整備するなど。